

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	三気の家		公表日		2025年3月20日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	0		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	0		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	3		建物の構造上や予算の制約により、エレベーターの再設置を含むバリアフリー化が難しい状況。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	0	毎日清掃・片付けている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10	0	のんきルーム、げんきルームを使用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10	0	グループワークの時間を設けたスタッフ研修を企画し、より具体的な状況を想定した上で、意見交換の機会を設けている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	0	保護者向け評価表を活用し、保護者の意向や意見を把握する機会を設けている。この評価は、法律に基づき年に一回実施しており、いただいた内容を基に業務改善に取り組むことで、より良い支援を提供できるよう努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1		面接は行っているが、今後回数や時期を検討予定。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	2		まずは評価表作成する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10	0	園内での研修や園外での研修への参加と報告をしている。かくたつ研修で別法人の研修をwebで受ける機会がある。	療育プログラムの向上とスキルアップを狙う研修や資料にまとめ発表することでより分かりやすい言語化・説明ができるよう努める。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10	0		作成中。年度内に公表予定。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10	0	チームで対応し、多面的に分析できるように努める。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10	0	コミュニケーションはST、身体・運動はPT、生活遊びは保育士等専門職の視点を踏まえ多面的に意見を出し合い検討している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	0	毎日の振り返り会で一人ずつの子どもの課題について情報共有している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	0		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	1	個人の目標について毎日振り返っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	0	その日の天候や季節によって、プログラムを変えている。外部から音楽タイムやサッカータイムを行っている。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	10	0	個別活動2〜3種、小グループ活動も3〜7種、定番活動も増やしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	0	毎日の朝礼や夕礼で確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10	0	毎日反省会を実施し、共有している。子ども一人一人の目標について情報交換周知やアドバイスをし合っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10	0	子ども一人一人の目標課題について毎日記録を残している。スタッフ会議で対策や対応の工夫点について話し合い改善に努めている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10	0	児童発達支援管理責任者がスケジュールリングを行い、実施出来るよう行っている。スタッフ会議で対策や対応の工夫点について話し合い見直しに努めている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10	0	診察が上手くできないお子さんには、スタッフが同行し、上手く診察出来るよう対応をアドバイスしたり、やりとりを示したりしたこともある。	緊急時の対応がより円滑にできるよう、情報の収集や連携の取り方について体制をさらに整えていく。
	26	併用利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10	0	併用先で成功体験を得やすい状況・課題・目標を示しスモールステップの提案を心掛けている。	併用先スタッフとの定期的な情報交換や相談を通じ、共通理解を深める。要望があれば保育所等訪問支援事業の活用も検討。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10	0	就学の先生に来園いただき、子どもたちの活動をご覧いただいた上で、意向支援シートを活用してお子さんの強みや課題、対応策について情報交換を行い、スムーズな就学先での支援につなげている。	
	28	(28〜30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	9	0	熊本市の委託で機能強化員を配置し、地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所と積極的に連携を図り、情報共有や支援の連携を通じて、地域全体の質の向上に貢献する取り組みを行っている。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	9	0	スーパーバイズを行ってくださる先生が数名おり、スタッフの質の向上や療育の質、対応の質を高めるために、知識や技術の向上を図っている。また、事例検討を通じて具体的な改善にも取り組んでいる。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	9	0	運営委員を務めるスタッフも在籍しており、会議や活動に積極的に参加できています。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	10	0	開園当初から地域の保育園との交流会を継続的に行っている。日常とは異なる経験ができる貴重な交流の場となっている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10	0	連絡ノート、定期的な面談、送迎時の会話などを通じて、課題に関する情報交換を行い、課題設定の適切さや進捗状況を確認するよう努めている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10	0	ファミリー学習会、親子通園、親子タイム、親子訓練会など、様々な時間設定や内容で企画を行っている。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	0	丁寧(早口にならないよう、説明事項の位置の確認をしつつ)に説明を行い、利用者や保護者の理解を十分に得られるよう努めている。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思を尊重し、こどもの最善の利益を優先的に考慮している。また、こどもや家族の意向を確認する機会を設け、計画に反映できるよう努めている。	10	0	計画を作成する際には、こどもや保護者の意思を尊重し、こどもの最善の利益を優先的に考慮している。また、こどもや家族の意向を確認する機会を設け、計画に反映できるよう努めている。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	10	0	児童発達支援計画を示しながら支援内容の説明を行い、保護者に十分にご理解いただけるよう努めている。また、計画内容について同意を得た上で支援を進めている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10	0	面談やノートの利用。連絡ノートでのやり取りだけでは改善や情報が不足していると判断した場合、立ち話やお電話などでアドバイスを提供するように努めている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	10	0	園の部屋を使用する際には事前にご相談いただいております。また、きょうだいのみの会は企画していませんが、参加可能な行事はいくつか設けています。	利用者のフィードバック活用：部屋使用や行事について、保護者や利用者からの意見を集め、それを基に改善点を検討する。
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10	0	子どもや保護者からの相談や申し入れに対して、対応の体制を整備し、周知を徹底するようにしている。相談や申し入れがあった場合には迅速に対応するように心がけるようにしている。	職員研修の実施：相談対応に必要なスキルを習得するため、職員向けの研修を定期的に実施する。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	10	0	毎月の機関紙発行に加え、音楽タイムや誕生会の様子を写真付きのお知らせポスターで掲示し、LINEでの報告も行っている。	タイムリーな情報発信：活動が行われた直後に報告や情報を発信することで、関心の高いタイミングを逃さずに伝えるよう心がける。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10	0	個人情報記載された用紙はシュレッダーで確実に処分し、記録や要旨は机の中や鍵付きの棚で厳重に管理している。	職員への研修実施：個人情報保護に関する研修を定期的に行い、全員が正しい管理方法を理解できるよう努めます。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10	0	口頭、ノート、ラインなど、二重で伝える。	受け手のニーズに応じた配慮：保護者や子供の特性に応じて、情報の形式（画像、音声、動画など）を柔軟に選び、負担を軽減します。
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	5	地域の方を招待する機会はない。	地域のイベントへの参加や掲示を通じた啓発活動、さらに施設見学日などを今後の課題として取り組んでいきたいと考えている。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10	0	振り返りの実施：訓練や実施後に振り返り会を行い、改善点を話し合い次回に活かすようにしている。	マニュアルを簡略化し、緊急時でも実際に動きやすいように改善が必要。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	0	非常時を想定した場合について話し合い会議をする。	会議内容の具体化：非常時を想定した議論を深めるために、具体的なシナリオ（火災、地震など）を設定し、それに基づいた対応策を検討する。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	10	0	対応の張り紙の掲示。服薬シートに記入していただき面談等で定期的に確認を行っている。	フィードバックの収集：保護者から継続的にフィードバックを集め、実際の運用に改善点を反映させる。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10	0	周知の徹底はされている。 対応の張り紙の掲示。	定期的な見直しと確認：医師の指示書に基づく対応が常に適切であるよう、定期的に確認し、最新情報を反映させる。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	0	安全計画を策定し、研修や訓練を実施し、安全な環境で支援している。	定期的な評価と更新：安全管理の現状を定期的に評価し、必要に応じて計画や取り組みを改善・更新する。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10	0	今年度は、避難訓練の際に保護者にLINEを活用した報告やお迎え確認の疑似訓練を行った。	様々なシナリオを想定：災害や事故の種類に応じた複数のシナリオを用意し、実際の状況に即した対応力を育成していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10	0	ヒヤリハットだけでなく、その前段階の報連相のミスやアクシデントも様式に記録し、周知や確認、改善につなげている。	記録内容の見直し、共有方法の具体的改善、研修や教育の導入。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10	0	今年度は動画による研修やアンケートに記入より自己評価を行った。	自己評価のフォローアップやチームディスカッションの実施が考えられる。
	53	虐待防止委員会及び身体拘束適正化検討委員会を定期的に開催し、その結果について従業者に周知徹底しているか。	10	0	年に数回研修を行っている。	研修時に集計を行うことはできましたが、現在のところ、分析や具体的な対処法の策定が課題。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	10	0		